

ワクチンに関する死亡報告一覧

第107回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和7年度第3回薬事審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会	資料2-37
2025（令和7）年7月25日	

2025年7月4日現在																
期 間	No.	ワクチン名	ロット番号	年齢 (数)	年齢 (単位)	性別	基礎疾患等	接種日	死亡日	死因または転帰死亡PT	報告医評価	因果関係 評価	専門家の意見	死亡症例として 報告を受けた日付	合同部会報告日	合同部会評価日
報 告 対 象 期 間 前	1	バクニュバンス ヘプタボックス ロタテック ゴービック	X026731 Y002196 X027302 X027303 X017760 X019569 5K05A 5K06A	4	ヶ月	男性	低出生体重児 早産児	20240702 20240807	20240907	乳児突然死症候群 心肺停止 突然死	評価不能	γ	接種後1か月での突然死。現状で入手できる情報からは乳児突然死症候群を疑うが、情報は十分ではない。	2024年11月1日	2025年1月24日 2025年4月14日	2025年7月25日
報 告 対 象 期 間 前	2	シングリックス シングリックス		53	歳	男性	そう痒症 喘息 高尿酸血症	20240729 20241022	20241109	調査中	調査中	調査中	調査中	2024年11月18日	2025年1月24日 2025年4月14日 2025年7月25日	
報 告 対 象 期 間 前	3	クイントバック ビームゲン ブレベナー２０ ロタリックス	B003B Y137L HR4293 RT032	3	ヶ月	男性		20241107	不明	死亡	評価不能	γ	接種してから死亡に至るまでの期間や症状経過などに関する情報が無い。	2024年11月27日	2025年1月24日 2025年4月14日	2025年7月25日
報 告 対 象 期 間 前	4	アレックスビー	RS001	72	歳	男性	慢性呼吸不全 気腫合併肺線維症 糖尿病 肺高血圧症 間質性肺疾患	20240903	20241017	調査中	調査中	調査中	調査中	2024年12月25日	2025年4月14日 2025年7月25日	

期 間	No.	ワクチン名	ロット番号	年齢 (数)	年齢 (単位)	性別	基礎疾患等	接種日	死亡日	死因または転帰死亡PT	報告医評価	因果関係 評価	専門家の意見	死亡症例として 報告を受けた日付	合同部会報告日	合同部会評価日
報 告 対 象 期 間 内	5	ニューモバックスNP	X029031	55	歳	男性	皮膚筋炎 腱手術 腱断裂 間質性肺疾患 靱帯手術 靱帯損傷	20241227	20241229	調査中	調査中	調査中	調査中	2025年1月14日	2025年4月14日 2025年7月25日	
報 告 対 象 期 間 内	6	ニューモバックスNP インフルエンザHAワクチン*デ ンカ	X026142 751-A	81	歳	男性	巨細胞性動脈炎	20241121	20241124	急性副腎不全 側頭動脈炎 ワクチン接種後蜂巣炎	関連あり	γ		2025年1月27日	2025年4月14日	2025年7月25日
報 告 対 象 期 間 内	7	プレベナー20 クイントバック ロタリックス ビームゲン	HR4293 B003B RT032 Y137L	3	ヶ月	男性		20241107	20241114	死亡	評価不能	γ	接種後1週間での死亡であるが、死に至るまでの症状経過に関する情報 が無い。	2025年1月30日	2025年4月14日	2025年7月25日
報 告 対 象 期 間 内	8	ロタリックス プレベナー20 クイントバック ビームゲン		3	ヶ月	男性		20241107	20241114	死亡	入手不可	γ	接種後1週間での死亡であるが、死に至るまでの症状経過に関する情報 が無い。	2025年2月4日	2025年4月14日	2025年7月25日
報 告 対 象 期 間 内	9	クイントバック ビームゲン プレベナー20 ロタリックス		3	ヶ月	男性		20241107	20241114	死亡	入手不可	γ	接種後1週間での死亡であるが、死に至るまでの症状経過に関する情報 が無い。	2025年2月4日	2025年4月14日	2025年7月25日

期 間	No.	ワクチン名	ロット番号	年齢 (数)	年齢 (単位)	性別	基礎疾患等	接種日	死亡日	死因または転帰死亡PT	報告医評価	因果関係 評価	専門家の意見	死亡症例として 報告を受けた日付	合同部会報告日	合同部会評価日
報 告 対 象 期 間 後	10	シングリックス シングリックス	ZS036 ZS045	80	歳	男性	慢性副鼻腔炎 脳梗塞 関節リウマチ 高血圧 2型糖尿病	20241209 20250310	20250311	調査中	調査中	調査中	調査中	2025年4月1日	2025年7月25日	
報 告 対 象 期 間 後	11	クイントバック プレベナー２０ ビームゲン	B005A LA4547 Y139A	6	ヶ月	男性		20250328	不明	調査中	調査中	調査中	調査中	2025年4月3日	2025年7月25日	
報 告 対 象 期 間 後	12	プレベナー２０ ゴービック ヘプタバックス ロタリックス	LA4547 5K10A Y013358 RT033	3	ヶ月	男性		20250331	不明	調査中	調査中	調査中	調査中	2025年4月14日	2025年7月25日	
報 告 対 象 期 間 後	13	ニューモバックスNP		60	歳代	女性	肺炎球菌性肺炎 胃切除 胃癌 脾摘		不明	調査中	調査中	調査中	調査中	2025年4月30日	2025年7月25日	
報 告 対 象 期 間 後	14	シングリックス	ZS047	79	歳	男性	乾癬 胃潰瘍 脊椎炎性脊髄症 腰部脊柱管狭窄症 B型肝炎	20250424	20250426	調査中	調査中	調査中	調査中	2025年5月7日	2025年7月25日	

期 間	No.	ワクチン名	ロット番号	年齢 (数)	年齢 (単位)	性別	基礎疾患等	接種日	死亡日	死因または転帰死亡PT	報告医評価	因果関係 評価	専門家の意見	死亡症例として 報告を受けた日付	合同部会報告日	合同部会評価日
報 告 対 象 期 間 後	15	アブリスボ		高齢者			酸素療法 間質性肺疾患		20250604	調査中	調査中	調査中	調査中	2025年6月9日	2025年7月25日	
報 告 対 象 期 間 後	16	乾燥弱毒生水痘ワクチン（岡株） *阪大微研	VZ376	89	歳	女性	狭心症 糖尿病 認知症	20250607	20250607	調査中	調査中	調査中	調査中	2025年6月11日	2025年7月25日	
報 告 対 象 期 間 後	17	テトラビック アクトヒブ	4K50B W1C41	1	歳	男性		20250418	20250608	調査中	調査中	調査中	調査中	2025年6月23日	2025年7月25日	
報 告 対 象 期 間 前	18	ビケンH A	HA238E	89	歳	男性	糖尿病性腎症 高血圧 2型糖尿病	20241114	20241122	うっ血性心不全 上部消化管出血 代謝性アシドーシス 冠動脈狭窄 尿崩症 急性腎障害 敗血症性ショック 横紋筋融解症	関連あり	γ		2024年12月2日	2025年4月14日	2025年7月25日
報 告 対 象 期 間 前	19	コミナティ インフルエンザH A ワクチン「K MB」	LL7260 539A	76	歳	男性	てんかん 亜鉛欠乏 便秘 片麻痺 糖尿病 肺炎 脳梗塞 貧血 高血圧	20241203	20241204	不詳の内因死	評価不能	γ		2024年12月5日	2025年4月14日	2025年7月25日

期 間	No.	ワクチン名	ロット番号	年齢 (数)	年齢 (単位)	性別	基礎疾患等	接種日	死亡日	死因または転帰死亡PT	報告医評価	因果関係 評価	専門家の意見	死亡症例として 報告を受けた日付	合同部会報告日	合同部会評価日
報 告 対 象 期 間 前	20	ビケンH A ヌバキンビッド	HA237C NT001	72	歳	男性		20241026	20241029	突然死	入手不可	γ		2024年12月12日	2025年4月14日	2025年7月25日
報 告 対 象 期 間 前	21	インフルエンザH A ワクチン＊デ ンカ	751-A	84	歳	女性	乳癌 外傷性血胸 摂食障害 肋骨骨折 胃瘻造設術 背部痛 脳梗塞 認知症 誤嚥性肺炎 骨粗鬆症	20241213	20241214	不明	評価不能	γ		2024年12月20日	2025年4月14日	2025年7月25日
報 告 対 象 期 間 内	22	ニューモバックスN P インフルエンザH A ワクチン＊デ ンカ	X026142 751-A	81	歳	男性	巨細胞性動脈炎	20241121	20241124	急性副腎不全 側頭動脈炎 ワクチン接種後蜂巣炎	関連あり	γ		2025年1月27日	2025年4月14日	2025年7月25日

※専門家の因果関係評価

α：「ワクチンと症状名との因果関係が否定できないもの」

原疾患との関係、薬理学的な観点や時間的な経過などの要素を勘案し、医学・薬学的観点から総合的に判断し、ワクチン接種が、事象発現の原因となったことが否定できない症例。

β：「ワクチンと症状名との因果関係が認められないもの」

原疾患との関係、薬理学的な観点や時間的な経過などの要素を勘案し、医学・薬学的観点から総合的に判断し、ワクチン接種が、事象発現の原因となったとは認められない症例。

γ：「情報不足等によりワクチンと症状名との因果関係が評価できないもの」

情報が十分でない、使用目的又は方法が適正でない等のためワクチン接種と事象発現との因果関係の評価ができない症例。

(症例 No.6)

患者背景	年齢	81 歳
	性別	男性
	基礎疾患	予診票の情報は不明（報告者が主治医より聴取し、A 医療センターで右側頭動脈炎の診断、接種日の CRP1.8 とのこと）
	既往歴	右側頭動脈炎
	併用薬	リンデロンを 1 日 0.75 mg 内服中。
	アレルギー歴	詳細は不明
	副作用歴	詳細は不明
	家族歴	不明
	報告以外のワクチン接種歴	インフルエンザワクチンは、一年前も接種しているが、肺炎球菌ワクチンは、初めて接種した。
	副反応歴	詳細は不明
	生活の場（自宅であれば同居・独居の別、高齢者施設利用状況等）	自宅で子供と 2 人生活
	要介護度	詳細は不明
	ADL 自立度	軽度の歩行困難があるが単独で外出可能、身の回りのこともできていた。
	嚥下機能、経口摂取の可否	可能
接種	ワクチン名	ニューモバックス
	接種日時（接種回数）	令和 6 年 11 月 21 日 午後 2 時 21 分頃 (1 回目)
	製造販売業者	MSD（株）
	ロット番号	X026142
	ワクチン名	インフルエンザ HA ワクチン
	接種日時（接種回数）	令和 6 年 11 月 21 日 午後 2 時 21 分頃 (1 回目)
	製造販売業者	デンカ（株）
	ロット番号	751-A

接種前後	接種前体温	36 度 3 分
	接種前後の異常	なし
接種後から異状発見（倒れる）までの状況		11 月 22 日に 39℃↑、腹痛あり、11 月 23 日は平熱だが、嘔気と下痢があった。
症状名		死亡
異状発見	発見日時	令和 6 年 11 月 23 日 午後 11 時頃
	発見時の状況（患者の状況、発見場所、発見者等も含む）	「苦しい」と倒れたもの。
死亡確認まで	救急要請の有無	有
	救急要請日時	令和 6 年 11 月 23 日午後 11 時 21 分
	救急隊到着時刻	令和 6 年 11 月 23 日午後 11 時 27 分
	救急隊到着時の状態（外傷、出血、気道内異物の有無等）	現着時 CPA
	搬送手段	救急搬送
	搬送中の経過及び処置内容	心臓マッサージ、アドレナリン投与
	病院到着時刻	令和 6 年 11 月 24 日午前 0 時 08 分
	到着時の身体所見	詳細は不明
	治療内容（気管内挿管や胃内チューブ挿入をされた場合は吸引物の有無、有の場合は性状、使用医薬品等）	気管挿管（その他は詳細不明）
	検査実施の有無（血液・生化学検査、感染症関連検査、画像検査等）	採血、レントゲン撮影あり。白血球数は 53,100/ μ L↑, CRP38.56mg/dL↑。
	死亡確認日時	令和 6 年 11 月 24 日 午前 0 時 54 分
死後の検査など	死亡時画像診断の実施の有無	有
	死亡時画像診断結果の詳細	全身 CT の結果、死に至る病変や外傷を指摘できない。
	剖検の実施の有無	有

	剖検結果の詳細または結果入手時期の目安	死因は、I欄 ア) 急性副腎不全、イ) 副腎皮質ステロイド剤内服中、ウ) 側頭動脈炎、II欄にワクチン接種後蜂巣炎と診断した。 ワクチン接種部に血管炎を伴う蜂巣炎あり。解剖時の採血では CRP 36.1mg/dL↑。同部位の培養検査は未施行、HE 染色で菌体は明らかでない。その他、副腎皮質束状層の萎縮、コルチゾール濃度は、17.1 µg/dl、慢性肝炎（小葉間静脈内血栓伴う）、慢性膵炎、慢性精巣炎（広範囲の精細管萎縮を伴う）を認める。他に CRP が上昇するような腸炎、脾炎等は認めない。冠状動脈硬化症は最大 10%の狭窄あり、弁膜症などの異常は認められない。心臓血には豚脂様凝血を含む。解剖時の NT-proBNP は 56,100pg/ml↑。また、骨髓 C/F 比は 1:1 程度で 3 系統の造血細胞が認められ、特に骨髓球系細胞が増生していた。その他、急性肺水腫、腎硬化症を認めた。 検索範囲の左右側頭動脈や大動脈に新旧の炎症所見は明らかではなかったが、肝臓、膵臓、精巣の慢性炎症は、既往歴の膠原病が影響している可能性があり、また副腎皮質の萎縮は、ステロイド内服が影響していると考えられた。ワクチン接種部の蜂巣炎や肝臓の小葉間静脈内血栓形成、NT-proBNP 上昇は、ワクチン接種が影響しているものと推定された。
医師の意見	死因及び医師の死因に対する考察（判断根拠を含む）	ワクチン接種部は肉眼的に発赤や皮膚潰瘍形成があり組織学的にも血管炎を伴う蜂巣炎を認め、炎症反応上昇の原因と考えられた。副腎皮質萎縮の状態があり、死亡前の腹痛の原

		因は、急性副腎不全の症状と推定された。
	他要因（他の疾患等）の可能性の有無	無
	ワクチンとの因果関係 （下記より選択） 1.関連有り 2.関連無し 3.評価不能	1.関連有り
	ワクチン接種と死亡との因果関係に対する医師の考察（判断根拠を含む）	解剖時の血液検査では、コルチゾール濃度は、17.1 µg/dl と基準値範囲ではあったが、解剖の結果、ワクチン接種部の蜂巣炎と副腎皮質萎縮、高度のNT-proBNP 上昇が認められた。死亡前の腹痛も副腎不全の所見として矛盾せず。ワクチン接種部に生じた炎症がきっかけで、急性副腎不全が生じたものと推定された。

(症例 No.19)

患者背景	年齢	76 歳
	性別	男性
	基礎疾患	脳梗塞後遺症、高血圧、症候性てんかん、便秘症、亜鉛欠乏症、糖尿病
	既往歴	46 才 脳梗塞（右片麻痺残存） 肺炎にて令和 6 年 6 月 13 日-令和 6 年 9 月 14 日入院。貧血については EGD にて出血源不明で抗血小板薬による胃粘膜からの易出血性と思われ PPI 予防投与とした。 退院後の令和 6 年 10 月 1 日の採血でも栄養は良好で、貧血もなく食事摂取も内服も良好だった。
	併用薬	オウギ末、デパケン、チクロピジン塩酸塩、ビソプロロールフマル酸塩、ニフェジピン、ブロプレス、ラシックス、ポリスチレンスルホン酸カルシウム、アミティーザ、ノベルジン、ランソプラゾール、インテナーズパップ、モーラステープ
	アレルギー歴	不明
	副作用歴	不明
	報告以外のワクチン接種歴	不明
	副反応歴	不明
	生活の場（自宅であれば同居・独居の別、高齢者施設利用状況等）	自宅 妻と二人暮らし
	要介護度	要介護 4
	ADL 自立度	杖歩行（自宅内、10 メートル程度） 通所リハ中
	嚥下機能、経口摂取の可否	不明
接種	ワクチン名	新型コロナウイルス
	接種日時（接種回数）	令和 6 年 12 月 3 日 午前 10 時 20 分 （不明）
	製造販売業者	ファイザー（株）
	ロット番号	LL7260
	ワクチン名	インフルエンザ
	接種日時（接種回数）	令和 6 年 12 月 3 日 午前 10 時 20 分 （1 回目）

	製造販売業者	KM バイオロジクス（株）
	ロット番号	539A
接種前後	接種前体温	37 度 2 分
	接種前後の異常	不明
接種後から異状発見までの状況		就寝前及び就寝後の状況には特別な症状がなかったことは同居妻に確認。 午後 7 時 30 分に自分の布団に入った。
症状名		心肺停止
異状発見	発見日時	令和 6 年 12 月 4 日
	発見時の状況（患者の状況、発見場所、発見者等も含む）	午前 1 時 10 分前に妻がトイレ歩行に行ったところ、布団から足がはみ出ていたため布団に入れ直すと、まったく反応がなく、顔が冷たく呼吸もしていないため、すぐに救急要請。
死亡確認まで	救急要請の有無	有
	救急要請日時	令和 6 年 12 月 4 日 午前 1 時 10 分
	救急隊到着時刻	令和 6 年 12 月 4 日 午前 1 時 16 分
	救急隊到着時の状態（外傷、出血、気道内異物の有無等）	外傷、気道内異物なし 妻によるバイスタンダーあり ASYS であり、救急隊が直ちに CPR 開始。
	搬送手段	救急車
	搬送中の経過及び処置内容	ライン確保しラクテック DIV BVM 換気、アドレナリン 1A 投与しながら搬送。搬送中も ASYS のままだった。
	病院到着時刻	令和 6 年 12 月 4 日 午前 1 時 38 分
	到着時の身体所見	CPA 状態
	治療内容（気管内挿管や胃内チューブ挿入をされた場合は吸引物の有無、有の場合は性状、使用医薬品等）	来院後も救急隊 4 人に手伝っていただき、CPR 続行、LUCAS による心臓マッサージ続行 挿管（ラリングエルチューブ）して BVM 換気続行 アドレナリンさらに 2A 投与したが、ASYS のまま。 気道からの吸引物なし ABG でも PH 6.5 と低く、午前 2 時 3 分に CPR 中止し、死亡確認。

	検査実施の有無（血液・生化学検査、感染症関連検査、画像検査等）	別紙参照
	死亡確認日時	令和6年12月4日 午前2時3分
死後の検査など	死亡時画像診断の実施の有無	Aiは希望されず
	死亡時画像診断結果の詳細	—
	剖検の実施の有無	なし
	剖検結果の詳細または結果入手時期の目安	—
医師の意見	死因及び医師の死因に対する考察（判断根拠を含む）	ワクチン接種後も特に症状なく、突然死に近いと思われ関係性は低いと思われた labo data からは死後経過と心マ後としか言えず。ただし貧血はふたたび増悪？ CPAの原因は不明 全身観察しても、縊痕も含めて外傷なく、両眼瞼結膜にも溢血点なし。仙骨部や背部の褥瘡も治癒しており、右足背の褥瘡も処置されている。失禁便も黒色ではなかった。 不詳の内因死
	他要因（他の疾患等）の可能性の有無	有：CPA 後に来院。検査では原因明らかではなく、来院6時間前までは正常確認されている。
	ワクチンとの因果関係（下記より選択） 1.関連有り 2.関連無し 3.評価不能	3.評価不能
	ワクチン接種と死亡との因果関係に対する医師の考察（判断根拠を含む）	ワクチン接種後24時間以内に死亡されているが、死亡とワクチン接種の因果関係については不明。 関係は低いと思われる。

血液検査結果

検査項目	基準値	単位	2024/10/1	2024/12/4
CK	59～248	U/L	126	861
CK-MB 定量	～5.0	ng/ml		20
トロポニン I 定量	～26.0	pg/ml		3391.1
BNP	～18.4	pg/ml		755.1
AST (GOT)	13～30	U/L	11	1998
ALT (GPT)	10～42	U/L	5	1215
LD-IFCC	124～222	U/L	195	5911
ALP-IFCC	38～113	U/L		113
コリンエステラーゼ (ChE)	240～486	U/L		159
γ-GT (γ-GTP)	13～64	U/L	20	21
血清アミラーゼ	44～132	U/L		77
総蛋白	6.6～8.1	g/dL		5.8
アルブミン: BCP 法	4.1～5.1	g/dL	3.7	2.3
A/G	1.32～2.23	—		0.66
総ビリルビン	0.4～1.5	mg/dl	0.4	0.5
直接ビリルビン	0.1～0.3	mg/dl		0.1
尿素窒素	8.0～20.0	mg/dL	20.0	35.8
クレアチニン	0.65～1.07	mg/dL	1.26	1.83
尿酸	3.7～7.8	mg/dL	7.2	8.4
ナトリウム	138～145	mmol/L	143	152
カリウム	3.6～4.8	mmol/L	4.2	6.5
クロール	101～108	mmol/L	104	107
カルシウム	8.8～10.1	mg/dL		9.6
血清血糖	73～109	mg/dL	170	276
TG (中性脂肪)	40～234	mg/dL	97	90
LDL-コレステロール	65～163	mg/dL	66	43
HDL-コレステロール	38～90	mg/dL	51	35
LDL/HDL	～1.5	—	1.3	1.2
バルプロ酸ナトリウム	50～100	μg/ml	74.2	
CRP 定量	0～0.14	mg/dL		9.76
推算 GFR 値	90～	ml/min	43.6	28.9
推算 Ccr		mL/min	44.9	30.4
白血球数	3.3～8.6	×10 ³ /uL	5.0	13.8
赤血球数	4.35～5.55	×10 ⁶ /uL	4.04	2.77
ヘモグロビン	13.7～16.8	g/dL	11.0	7.4
ヘマトクリット	40.7～50.1	%	35.3	25.7
MCV	83.6～98.2	fL	87.4	92.8
MCH	27.5～33.2	pg	27.2	26.7

検査項目	基準値	単位	2024/10/1	2024/12/4
MCHC	31.7～35.3	g/dL	31.2	28.8
血小板数	158～348	$\times 10^3/\mu\text{L}$	171	222
Neutrocyte	40.0～75.0	%	70.4	61.1
Lymphocyte	25.0～44.0	%	17.9	32.4
Mono	2.0～8.0	%	6.3	6.1
Eosino	0.0～10.0	%	5.0	0.3
Baso	0.0～5.0	%	0.4	0.1
HbA1c				
HbA1c (NGSP 値)	4.9～6.0	%	5.7	7.1
HbA1c (JDS 値)	4.3～5.8	%	5.3	6.7
PT				
PT (秒)	10.0～13.0	sec		19.8
PT (活性)	70.0～140.0	%		30.2
PT-INR	0.85～1.15	—		1.76
APTT				
APTT 時間	24～34	sec		75.2
APTT 対照		—		27.0
APTT-R		—		2.8
D ダイマー	～1.0	$\mu\text{g/ml}$		52.3
SARSCoV2PCR 院内	陰性	—		陰性
プロカルシトニン定量	～0.05	ng/ml		0.14
血液ガス静脈血				
測定時間		—		02 : 00 : 18
PH		—		6.517
酸素分圧 PO2		mmHg		18.1
酸素分圧 PCO2		mmHg		89.0
重炭酸イオン HCO3-		mmol/L		7.1
BE (B)		mmol/L		-30.4
酸素飽和度 SaO2		%		<15.0
ヘマトクリット (Hct)		%		22
ヘモグロビン (tHb)		g/dl		7.5
FO2Hb		%		8.0
FCOHb		%		0.2
FMetHb		%		3.1
FHHb		%		88.7
ナトリウム (全血)	135～148	mEq/l		147

検査項目	基準値	単位	2024/10/1	2024/12/4
カリウム（全血）	3.5～5.3	mEq/l		6.2
クロール（全血）	98～106	mEq/l		105
イオン化カルシウム（全血）		mg/dl		4.7
AnGap	10～18	mmol/L		41.2
血糖（全血）	70～109	mg/dl		273
乳酸（全血）	0.5～2.0	mmol/L		11.99
FreeT4	0.70～1.48	ng/dl		0.84
TSH-IFCC	0.61～4. 23	uIU/mL		14.968

(症例 No.22)

患者背景	年齢	81 歳
	性別	男性
	基礎疾患	予診票の情報は不明（報告者が主治医より聴取し、A 医療センターで右側頭動脈炎の診断、接種日の CRP1.8 とのこと）
	既往歴	右側頭動脈炎
	併用薬	リンデロンを 1 日 0.75 mg 内服中。
	アレルギー歴	詳細は不明
	副作用歴	詳細は不明
	家族歴	不明
	報告以外のワクチン接種歴	インフルエンザワクチンは、一年前も接種しているが、肺炎球菌ワクチンは、初めて接種した。
	副反応歴	詳細は不明
	生活の場（自宅であれば同居・独居の別、高齢者施設利用状況等）	自宅で子供と 2 人生活
	要介護度	詳細は不明
	ADL 自立度	軽度の歩行困難があるが単独で外出可能、身の回りのこともできていた。
	嚥下機能、経口摂取の可否	可能
接種	ワクチン名	ニューモバックス
	接種日時（接種回数）	令和 6 年 11 月 21 日 午後 2 時 21 分頃 (1 回目)
	製造販売業者	MSD（株）
	ロット番号	X026142
	ワクチン名	インフルエンザ HA ワクチン
	接種日時（接種回数）	令和 6 年 11 月 21 日 午後 2 時 21 分頃 (1 回目)
	製造販売業者	デンカ（株）
	ロット番号	751-A

接種前後	接種前体温	36 度 3 分
	接種前後の異常	なし
接種後から異状発見（倒れる）までの状況		11 月 22 日に 39℃↑、腹痛あり、11 月 23 日は平熱だが、嘔気と下痢があった。
症状名		死亡
異状発見	発見日時	令和 6 年 11 月 23 日 午後 11 時頃
	発見時の状況（患者の状況、発見場所、発見者等も含む）	「苦しい」と倒れたもの。
死亡確認まで	救急要請の有無	有
	救急要請日時	令和 6 年 11 月 23 日午後 11 時 21 分
	救急隊到着時刻	令和 6 年 11 月 23 日午後 11 時 27 分
	救急隊到着時の状態（外傷、出血、気道内異物の有無等）	現着時 CPA
	搬送手段	救急搬送
	搬送中の経過及び処置内容	心臓マッサージ、アドレナリン投与
	病院到着時刻	令和 6 年 11 月 24 日午前 0 時 08 分
	到着時の身体所見	詳細は不明
	治療内容（気管内挿管や胃内チューブ挿入をされた場合は吸引物の有無、有の場合は性状、使用医薬品等）	気管挿管（その他は詳細不明）
	検査実施の有無（血液・生化学検査、感染症関連検査、画像検査等）	採血、レントゲン撮影あり。白血球数は 53,100/ μ L↑, CRP38.56mg/dL↑。
	死亡確認日時	令和 6 年 11 月 24 日 午前 0 時 54 分
死後の検査など	死亡時画像診断の実施の有無	有
	死亡時画像診断結果の詳細	全身 CT の結果、死に至る病変や外傷を指摘できない。
	剖検の実施の有無	有

	剖検結果の詳細または結果入手時期の目安	死因は、I欄 ア) 急性副腎不全、イ) 副腎皮質ステロイド剤内服中、ウ) 側頭動脈炎、II欄にワクチン接種後蜂巣炎と診断した。 ワクチン接種部に血管炎を伴う蜂巣炎あり。解剖時の採血では CRP 36.1mg/dL↑。同部位の培養検査は未施行、HE 染色で菌体は明らかでない。その他、副腎皮質束状層の萎縮、コルチゾール濃度は、17.1 µg/dl、慢性肝炎（小葉間静脈内血栓伴う）、慢性膵炎、慢性精巣炎（広範囲の精細管萎縮を伴う）を認める。他に CRP が上昇するような腸炎、脾炎等は認めない。冠状動脈硬化症は最大 10%の狭窄あり、弁膜症などの異常は認められない。心臓血には豚脂様凝血を含む。解剖時の NT-proBNP は 56,100pg/ml↑。また、骨髓 C/F 比は 1:1 程度で 3 系統の造血細胞が認められ、特に骨髓球系細胞が増生していた。その他、急性肺水腫、腎硬化症を認めた。 検索範囲の左右側頭動脈や大動脈に新旧の炎症所見は明らかではなかったが、肝臓、膵臓、精巣の慢性炎症は、既往歴の膠原病が影響している可能性があり、また副腎皮質の萎縮は、ステロイド内服が影響していると考えられた。ワクチン接種部の蜂巣炎や肝臓の小葉間静脈内血栓形成、NT-proBNP 上昇は、ワクチン接種が影響しているものと推定された。
医師の意見	死因及び医師の死因に対する考察（判断根拠を含む）	ワクチン接種部は肉眼的に発赤や皮膚潰瘍形成があり組織学的にも血管炎を伴う蜂巣炎を認め、炎症反応上昇の原因と考えられた。副腎皮質萎縮の状態があり、死亡前の腹痛の原

		因は、急性副腎不全の症状と推定された。
	他要因（他の疾患等）の可能性の有無	無
	ワクチンとの因果関係 （下記より選択） 1.関連有り 2.関連無し 3.評価不能	1.関連有り
	ワクチン接種と死亡との因果関係に対する医師の考察（判断根拠を含む）	解剖時の血液検査では、コルチゾール濃度は、17.1 µg/dl と基準値範囲ではあったが、解剖の結果、ワクチン接種部の蜂巣炎と副腎皮質萎縮、高度のNT-proBNP 上昇が認められた。死亡前の腹痛も副腎不全の所見として矛盾せず。ワクチン接種部に生じた炎症がきっかけで、急性副腎不全が生じたものと推定された。